茶人嘉多藝

一

へ13
380
1

へ13
380
1

門へ13
號380
巻1

三ツ喜

風流茶人新編序

吏長幼序ありて朋友信ありて事を汲み樂
ハイすき茶道の一流ちんしとむべなるかな。
利休居士の書り。若後世茶ふ奏と極。
異風流好士出ぶりん。尤あつぶ寄意よ
も異有趣き。一新俳を綴和して。是を請

よて申さとさんしたくや。未だ時ふかいうるはし。
篠ヲ能茶乃所おれまちんと。たゝの数
と信。恵よ茶人へさ家と。紙巻しこの。此
天竜寺茶ぽちのはもふ自然を信る一ワ
の時年
とし元
春

永井壹
作者　亀友

風流茶人皆気巻之一目録

一　舞入ゝ所ゝ庭ゝよ庭の紙屏方張者
碧さけづゝゝもろもとおちんざ
茶の湯の藏古
所り　結乃色と雲付ぶ高人の茶の湯ハ
書茶の人よせよ古方と板と同じ事
宗体乃色の茶人と月花ちる言ゝの点ハ
人色の陰ゝけ茶の茶の湯ゝん乃の色ひ
伊勢めぐひの入ごゝろ

一　霊子高人の和歌ハ上ゆ下なりとも
ものと異なる事

所り家常さ振舞よりとなく勤る近所の
茶の湯ハ毛仏堂清浄法式り
清ら行ふる和尚のよろこび

風流茶人賛　巻之一

舞入る脇ふ扇の絵賛

茶小路有人ハ文小関ドとて源る茶ゆの文ハ風雅ふ朋
友の信を当ふ茶小路ふ貴して楽当で茶を好し事の数ゆ
ハ乃も叶ハ屋ふなるとふ行ふ今世ふ行ふ茶人の好古と
風雅ふ乃ふ又風雅のあるべきハんふ茶人ハ此潔
茶の法儀を黄人ふ答庵世教寺屋町ふ源屋市兵衛といふ俳
名ハ迎年ふ茶の湯と楽ふ手ふ取ふ墓ふに代と添し
ふ名ハ市兵衛ふ友名して風雅の才元年山男市兵衛小紅
茶ハ新町ふ住ハ極屋の氏ふ生国日野の生ふ乃ふ二親小兵
衛の時ふ京ハ兄の代を引ハ人ふ宿遠入料ふ根武貴

月雪ひ山酒屋の後家の娘と武三貴月沖の蔵屋敷後尾久代
月下てふ彼武ノ月と称未紙ようての入聟ゑが脱ふそいが根も角
の紙問たまやの一家うちよ拾貴月宗の跡元代が計迎ゑそ〳〵
の太作者ひも作〳〵姉と和屋とありて氏代二人丁稚二人の店と作者
ま紙問ちろうちよ後の親病寿付年の病元日〳〵よりもふ迎行〳〵
行まて迷云状と元しハ後作の月宗今ゑせんとて先ゑハ酒て居さが
ゆ来拭の意尾の中へ今武百女入ゑさとの寺屋ゑ作仏〳〵ぢのけ
てんようふ元出代作薄ゑ今仏〳〵ふ梅ゑがふ家屋敷賞ゑてて
昔ハ病ひうもさ寺清が俄ま風の藝者女房ふ子のゑが病意ゑ
先祖の元屋より十六ふ成男子と喜ま〳〵て作ゑうぬ先ゑ信者ぶ
らせうふゑさらうゑて和〳〵ゑ山神ゑても元ちとうされゑ人
和作〳〵附合ゑ上ずうゑて元ろ〳〵菜の湯のけいと初ハ明屋元も

仙岩さふよみ〳〵うす来ゑ和ふ代ゑ作屋寿ゑの墓元
ゑとびゑあのけと代ゑさもゑる元屋のゑり毎月寿方〳〵墓元行て作
元ハ代ゑ元ゑ敷方墓の作で酒のでんゑ彩〳〵常代の明ちて房和人の
ちゑふすゑを作ふゑやぶそのの菜の湯一奥ゑ女房ゑ作ハ後風和寿
じゃと感ゑるもおゑ〳〵いろよゑて元ハ集酒屋和寿ゑ今ハ有座
寿〳〵ふ和〳〵の中屋後の下女ゑ作て後ゑのちて作ゑ安ゑ寿ゑ根ゑ入聟元
女房のゑあと左ゑ元ゑ菜の湯もゑまり女房ゑすゑ先代〳〵ゑ作
式と和〳〵ハ寿ゑもゑ寿ゑの寿屋酒ゑの敷和ゑも今一いきゑ〳〵ふ寿〳〵
けゑゑ酒寿ゑ酒屋の無藤ゑ元ゑ敷和人ゑ〳〵ゑ作女房俄ふ寿作風和
ゑ作医療ゑとに元ゑ元ついふ小腹ゑ〳〵て和寿ゑ今ハ後
〳〵ハ大ゑ対代と寿ゑ酒ゑ〳〵ゑて物〳〵ゑ女と仕掛て後黄ゑ入ゑ
墓ゑ主後帝も世一ゑ和ゑ元ハ墓のゑゑと元今ハ後押考ゑ和男の上弱ゑ後素

八合ふなうちせうに仏の奉ずるこに候のうるむいて菓子にしてそんぞんさるぬ中のかすさ姉と島の嫁小目が付明れたるとけさバあり付かし酒さげん日時のさひ屋むるうくよあの二階小整待て居ろ
丑八仏色くとなる書ての古てのつひきるぬれよよあも自安そ、変立て八丈の紙紙への寄しロ、うろ〳〵と立て居ろうとと島ろ主法命ぐん付きうとハぐんな貢尾ま家名ろ不ま老くの民がうに立ん人と配門のまろ人ろて文さぬれま網ろ〳〵ろと紙長ハ江戸居るされませ仏事もい酒の上なるバ主法命招もよあごは座切で川へお流〳〵ろ人お袋技の紙青色ろでおるさご紙長ハ江戸のお付合せし法義ルさぬ民ら慶明を
居ろと兵で碑さあ面ぐくあさとひ切てそきろ主法命と主法ろ段
ま男ハ主法命ろと反者して仏小下の所の位屋明ませて文十三の楽法
居ろでし変の志ごろ付ハて年寄で大きみ面ま主くいろろの付一石の

どろうと菓ま打迎で久ん主きとつけ兵でもごと法ぎろまつとう仏ま
迎ハ後田とと字道へ入つしてお入かまるぬ菓のけとと子下地がろと西
へど表ろ底の島ろの教さハろんといとう中〳〵ち変ろハの立ろ〳〵ろの
男もろんんして主ハ只仏を光さ見ハあ主道へ全北の兵前りて紙ろ
つめ付ま技ハ技ハ地面の傾付ろ弁主命の菓の屋月の菓の屋月新
菓名ろの菓の屋まで仏接して菓のろざハろ祭ど北のおけで法
ろ古ハ六ぶの概仏ま立ろ中ろハ方くの全日とは様ろ付て仏西ろ技法
居ま菓人の紙ろと長ろ変ん中技ま人地どきして技主法かいと
ん生ハろみま菓楽庵と新。に切付ハ小日〳〵客朱ろて屋
夜上下ハろ付て楽生ハ付へ編とまあてたろ浮世菓人ハ変ま
書ま東屋が菓とろんろあハ汲仏ハ大ろ方ま三方の主ま知いて屋。
紙ど屋ハ古ろ屋つまま菓と書んろ中ろ中ハ付浮世菓人〳〵

いふ茶の湯をもて風雅と称でいふ人世てさび道をのいけどとをゝ付
反邪いおつい茶〳〵上をこゝにたすと色茶の道ふけてもなをとせぬ人ハ
ぶ風雅とてをゝ茶くとをゝ合へさでも法師の系をゝのいもせ
やをゝふわめどろう白茶のを出てのついをゝ茶どをゝさの四茶ふハをゝあし
茶百と茶野性をんをゝてゆるせをゝのおをゝが出まをゝの。そけらを茶を沈紙の
は茶にようびしゆうをゝぶをゝ茶沙の文百をでおりをゝあるれまをゝをゝのをゝをゝぶ
無つをゝをゝあのゝトの町の法茶流れハをゝをゝり出をゝをゝをゝ茶
人をゝで茶をゝで茶をゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ
ぶをゝをゝをゝをゝ只かをゝをゝあをゝ紙のをゝ色をゝの流ぶ紙高人ハかをゝびふ
沖法のをゝ愛明をゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ人の茶の湯をゝ人民。
山をゝ左をゝ七仕茶世茶乃をゝ茶乃をゝをゝをゝをゝをゝをゝ入迎をゝ法世茶人。
紙をゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ

ゝ法ハをゝ後田の法ハ小をゝ流ふをゝ今百乃をゝ法をゝ茶金茶の法ハをゝ
をゝふ法ハ茶をゝ法ハ茶をゝ法ハ茶をゝ法ハ茶をゝ法ハ茶をゝ法ハ茶をゝ法ハ茶
て世をゝをゝをゝをゝをゝ朋茶の法ハ茶乃を茶をゝ法ハ茶をゝ法ハ茶をゝ法ハ茶
をゝ法ハ後田茶道をゝ法ハ茶中ハ茶をゝ法ハ茶をゝ法ハ茶をゝ法ハ茶をゝ法ハ茶
をゝをゝ法ハ茶をゝ法ハ茶をゝ法ハ茶をゝ法ハ茶をゝ法ハ茶をゝ法ハ茶をゝ法ハ茶
をゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ
をゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ
をゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ
をゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大ひるまのちゝ親をゝの出産分娩とゝ
氣と付ク程ごろふゝあるゝ
きてゝ居く江戸ゝ行ゝ
まち方こゞつてゝ時し拍よてく
歳てゝくゝゝるゝ
七ゝゝゝ笑ゝれハせゝゝゝ
へゝるゝゝゝゝゝ
の敷ゝゝひゝ
けゝゝゝゝゝゝ
れゝゝ
汗ゝゝ

しゝて越ゝきハ宮も焼の焦れとゝ
しゝ道道徒のお茶の場ゝ三人
養のさめさんゝ上ゝ
教ゝゝゝゝゝ
上下ゝゝゝ汗で
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ
根ゝゝゝゝゝ
宮ゝ
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝ

和めろ為ってことし栗の付ぬ不斗ら和の月さえと思が者和のそ為ば
よ字眼玉の黒し白眼の赤ぢでしろとびんよおとの白髪でまま為和白
黒とと面ハ智りなまハ客もこのまのおうさハ者て作まこん和もいまこん
一向お月ハたなまま孤ハよ〜三人が笑どこく為者〜ばし〜好てさ斗
ハさ〜上ちと為で生て作し〜ちうまをこに引さげ浪〜神部へ中げ為
笑くてびれ為のころ。為て庭でおうさるとうろり

宮出の和歌うハ大工七色と為て三史

史庵ちの書日。俵ハ事ハ性静ハ俳句。ちさハじく俵句とたハち付ハ
当たらざろあよ心こられどて性事ハ。ハ七為の保ばき上加義
の三和よ為ちこのう京ハ生伊京為尾色の呉服屋へちまろ小徒衣
ちこ〜老らく狐ちハ小て赤ま動ち三年の色書明て八年の徒
ま三世のう宿這ハ。親方ち三彩ろ徒の呉服為られハ。徒三百色業

ての為和ハ三人の代ハ初と俳て拝出ちわ京屋徒為問ちわの百ハ
中房とちび熱ハ男ろま妹と二人のろとりちけ。ろひちまハ者人法為
のくハかろ為ぐられて独為入ち三の年ちハ為ちま徒し。若ま為ぐち
下女の一人ハ徒ひ。易ハ世痕ち十ちろ為ハ出ちま入ち俳徒ろし
元組附ハ。伊ろも町の伊人ろ為てちくとてんげ小川屋小業の為部世徒
人間〜そろハ伊ろが徒接ろ家屋為ハ彩にの拾ろ入せ付て十ち為
のち為てわ。ち也屋屋のち部ハ書ろ業と樂書為拾ろのハのろハ
四年まのちこ。ま小書流之の為ハ樂ハ。ち年世為拾小ハ
付のち為と大ちおなろ中の本と伊徒で為。ちろハ為ハ為ろ月徒
とハらひ性為沙のけて為ハ為ぐ為ハ為ぐ為ハ徒為ち部の徒接ろ
と為拾ち為の為ハ為ハ為を付て。十ち月ろ為拾接の拾代て徒会為。二
三日ハ性切ち為で為月祖日ハ為ろ為ハ為ち為ハ為ハ為ハ

大工日庸やとひ。徒者なしとぶらかすぶ。書院えんの
とくとし。ふかめ。板庭へ。ぶらそ日庸もつ和て。先ち。差と。陪せ。仕ぶ
ぶ。小切。縄をかけ。ぶ月。板も。引ふ。そて。なさ付。ふ。ひとを。跪ふ
ぶ。ぶ。おふて。差の。角よつ。きを。ぶ。ぶきの。たり。ふ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ふ。柱。ぶ。庭の。樹。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
て。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。
ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。

こしてかいわへ好んでも出格子をおたぶの間よりて茶屋とつゝ高んと
格子有りとおもふてぞ一寸れまいとハはまりつさるいのぽとまん〳〵北紙屋
こまれまして下〳〵おけ屋敷も出来ます。ぽ子見めの代よお町元お生合の付帯
お茶かゞ寄れ世ハ市代。ぽれ今時おぢ〳〵こと茶屋とよてまゑとれて
紙会おとこ寄ます〳〵ぽい地でもぽ子ぢ〳〵ぬれハ位らはまん屋よいゑ〳〵いこまん
まゞひ〳〵ふ子ハはまり〳〵ふ寄れて寄れ世。ぽ地ぽ元寄れ世ハくゞ〳〵ぽハいでも
生来ます〳〵みるこそのいろん使ぽ太工のいまぽ。地ぢ〳〵ぽ子ぽれ位〳〵のれ
害ぢんせの位ぽ方ぽ。ぽ子りまあの入ろ寄ハ中おのとハろんとゝまゝてさゝ上
でハぽハが一度寄てぢされ。と地ぽハ上かもの百姓の時さこのこ屋ぽれのぽ品屋と云
呉服や〳〵まぽ子ぽ子ぢ寄そ屋ろ勅て世の年寄遠〳〵新方もそ帯地人の有ゝ
あげ〳〵ぽ位方ぢ子ぢ人の氣と休て祝ぽ元ぢ子ぽれ位ぽ位けハおまけ寄ます地ぽ
ぽ〳〵の帯造入合せ祝出。位ぢ元〳〵ぢる今祝ぢ子ぽ子ぽ地ぽのぽ寄ぽ子て有

と勅倹約て年二月て今位ぽ子ぽ代とひろけ。ぽ代でぢ子ぽ子ぽ人も地ぢ子ぽ
まぬ子ぽ子ぢ子人の新ぢ子ぽ地ぢ子ぽ子ぽ子ぽ地ぢ子ぽ今でハ茶ぢ子ぽ子ぽ
ぽ寄ぽすぢ子ぽれぢ子ぽ夫婦ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ
でハぽ子ぽ子ぽ。ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ
ハ子ぽ子ぽ子ぽの氣ぢ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ
一向乃位の拵ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ
ぽ子ぽのぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ
ぽ子ぽ今の見ハぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ
ぽ子ぽ子ぽの石器ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ
ぽハ所人でも永続ハ子ぽ子ぽ地。ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ
材木も切て子ぽ子ぽハ今ぽ子ぽの位でぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ
ぽ子ぽ子ぽあの拵ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ子ぽ

こんかの件まハ大ぶ不ハ自身にもいく代ぶ出入の儀ようとく者ゆえ
ぶ者ゆえ三ハ者の儀ものゆえ世ゆ乃人ゆえ乳ゆえ乳母のゆえ
とゆえ乳ぬ乳ぶ乳ゆえ乳母の乳ゆえ乳母の湯ゆ同の指ゆ一代ハ仙の乳ゆえ有ゆえ
ゆえ御や孫の代ハ本ゆ付家ゆ者ゆ者ハ者ゆ者ゆ者ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]